



# 横浜市歯科衛生士の業務紹介



横浜市の職員歯科職種は、歯科医師4人・歯科衛生士18人の計22人（令和5年4月13日現在）が、市役所・区役所（福祉保健センター）に勤務し、子どもから高齢者まで各ライフステージに沿った歯科口腔保健の取組を進めています。現在3年目を迎えた職員にインタビューし、なぜ、横浜市を受験しようと思ったか、実際に行っている業務などを紹介します。

## 歯科衛生士にインタビュー♪

令和3年度入庁  
区福祉保健センター福祉保健課  
健康づくり係 酒井 綾



### ★なぜ行政の歯科衛生士になろうと思いましたが？

大学在学中から、健康教育の講義が好きだったことと、自身が幼児期からむし歯に罹ってしまったこともあり、妊娠期・乳幼児期へ広くアプローチができる行政に興味がありました。ただ、行政の歯科衛生士募集はとても少ないため、自分が就職活動をする時に募集があればいいな、と思っていました。偶然にも横浜市の募集があり、卒業後すぐに横浜市へ入庁しました。

### ★現在どのような業務を行っていますか？

私は、感染症対応や主に成人期の健康づくり事業を行う福祉保健課に配属されています。歯科衛生士は、すべてのライフステージにおいて歯と口の健康を支援する役割があります。その業務は多岐にわたり、会計年度任用職員の歯科衛生士さんたちや、こども家庭支援課、高齢・障害支援課など他の課と連携・協力して歯科口腔保健事業を進めています。また、区役所職員として、窓口や電話対応など歯科以外の業務も行います。

乳幼児健診での  
歯みがき指導  
(コロナ禍前、他区の様子)



区役所を出て、  
地域で健康教育も  
行います



窓口や電話の対応のほか、  
事業の企画、報告書作成  
等の事務的な作業も  
大切な業務です



### ★どのような時にやりがいを感じますか？

1歳6か月児健診の後、むし歯のリスクが高く教室をご案内したお子さんが、当初は歯みがきもうまくできずにご両親も困ってしまうような状態から、経過健診を卒業するころには、泣かずに歯みがきができるようになり、3歳児健診の時に「酒井さんと頑張れてよかった」とお母さんに言っていただけたとき。

また、自分が内容を考えたりフレッツや事業が実現するなど、自分が企画したものが形になった時には、大変な思いをした分とてもやりがいを感じます。



偶然同じ係に配属となった保健師（写真右）  
・栄養士（写真左）の同期です

### ★受験を考えている方へのメッセージ

歯科衛生士は少人数ですが、日頃から局や他区の歯科衛生士の先輩・同期・後輩と情報共有し、助け合いながら業務を進めています。子育てや介護など、様々なライフイベントがあっても「休める」「続けられる」環境や、事務職・栄養士・保健師など様々な職種と関わることができる点は、やはり大きな魅力だと感じています。歯科の視点から横浜市民のくらしを支える職員として、一緒に働いてみませんか？4月にお会いできることを楽しみにしています。

